

令和6年度 泉佐野市保健対策推進協議会議事録(要旨)

1. 日時 令和6年10月31日(木) 14時～16時
2. 場所 泉佐野市役所 4階 庁議室
3. 出席 山下委員 上田委員 中西(喬)委員 藤谷委員 木下委員 道明委員 南委員
木山委員 西願委員 新堂委員 角谷委員 柴田委員 三木委員 上仁委員
麻生川委員
4. 欠席 中西(常)委員 滝本委員 植野委員 左近委員
5. 次第

- 1) 開会
- 2) 健康・食育・医療担当理事挨拶
- 3) 委員紹介
- 4) 事務局紹介
- 5) 資料確認
- 6) 会長・副会長選任
- 7) 議事

- (1) 泉佐野市の現状と健康増進事業の実績について
- (2) がん検診受診率向上の取り組みについて
- (3) 糖尿病予防対策、特定健診受診率・特定保健指導実施率向上の取り組みについて
- (4) 第2次健康増進計画・食育推進計画の進捗状況について
- (5) その他

- 8) 閉会

6. 内容

(開会)

(健康・食育・医療担当理事挨拶)

(委員紹介)

(事務局紹介)

(資料確認)

(議事進行内容)

会長挨拶) コロナ当初は重症化→ワクチンで重症化をまぬかれていた→最近変異株で重症化
コロナには注意深く対策を

泉佐野市 生活習慣病。特に糖尿病や高血圧などの病気が多い

健診受診率が良くない がんの死亡率も高い 健康寿命が短い

→現状をいかに良い状況にもっていくかがこの協議会の役割

事務局)

- (1) 泉佐野市の現状と健康増進事業の実績について

資料1の泉佐野市の現状

(1) 人口の推移です。本市の総人口は、令和6年3月末現在 99,080 人
令和2年以降年々減少、令和5年と令和6年の2年は若干の増
65歳以上の人口は、年々微増
高齢化率は令和4年以降 26.5%
0歳から14歳人口は毎年減少

(2) 出生・死亡の状況

① 出生数と出生率の推移

出生数・出生率とも平成30年以降減少 全国、大阪府より低い出生率

② 死亡数と死亡率の推移

本市の死亡率は、近年横ばいだった、令和4年は増加に転じた

③ 死因別死亡数

令和元年から令和4年の死因別死亡数

国、大阪府と同様、悪性新生物が最も多く、次いで心疾患

泉佐野市の男女別の死因の順位

男女の性差など大きな違いなし

④ 標準化死亡比 性・主要死因別 標準化死亡比の状況

平成20年から24年

泉佐野市と全国の比較 心疾患、悪性新生物、肺炎、腎不全、肝疾患が高い、

大阪府と比較 男女ともに心疾患の死亡比と男性の腎不全が高い

平成25年から29年

泉佐野市と全国の比較 心疾患、悪性新生物、肺炎、腎不全、肝疾患が高い

大阪府と比較 男女ともに心疾患、肺炎・腎不全の死亡比が高い

脳血管疾患、肺炎、自殺が上昇傾向

女性で上昇傾向の死因は肺炎、腎不全、肝疾患

平成30年以降の5年分のデータは令和7年に出る予定

(3) 平均寿命、健康寿命

全国、大阪府と比較して男女ともにやや短い

健康寿命については、データの算出方法に違いがあり、参考値

(4) 本市の令和5年度国保医療費の状況

全体の医療費に占める割合、

「慢性腎臓病（透析あり）」5.3%

「糖尿病」5.0%

この2疾患は令和3～5年度の医療費の約10%を占める状況

糖尿病対策が重要

入院による医療費の状況

令和3年度から令和5年度の1位は統合失調症

関節疾患・骨折などの整形疾患の医療費も上位

外来の医療費

令和3年度から令和5年度は糖尿病が最も多く、次いで慢性腎臓病(透析あり)
数年大きな変化なし

P.9 健康増進事業の実績

①がん検診の受診状況

令和2年度からはすべてのがん検診で受診率が低下

原因

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による健診の延期、
感染予防の観点から集団健診の受診数を制限しながらの実施

令和5年度も令和元年レベルに回復していない

子宮がん検診・・・全国・大阪府より高い

その他の検診・・・全国・大阪府より低い

②集団・個別健診別受診状況

胃がん検診・・・平成30年7月から胃内視鏡による個別検診を開始

50歳以上の方は2年に1回

令和元年度は204人

令和2年度、243人

令和3年度が227人

令和4年度294人

令和5年度297人

大腸がん検診・・・平成27年度から自己負担金無料の個別検診を開始

受診できる医療機関数が多数

特定健診との同時実施可能

かかりつけ医による受診勧奨により個別検診で受ける人が4割から
5割

子宮がん検診・・・熱心な婦人科、産科の先生方がおられ、市と連携し取り組みを進め
てきた経過

かかりつけの婦人科から受診勧奨を行い定期的に検診受診する意識
が定着

③乳がん・子宮がん検診無料クーポン

乳がん検診無料クーポン対象者

無料クーポン対象者の人の受診率が高く、一定の効果あり

子宮がん検診無料クーポン事業の対象者

子宮がん検診の無料クーポン対象者の受診率は全国的に見ても低い

④健診予約方法割合

5人集まれば予約できる先行予約・・・先行予約が約1割

インターネット・・・インターネット予約が2割 予約の割合も増えて
きつつある

電話・・・電話予約が7割

予約しやすい環境づくりに努務める

⑤特定健康診査・特定保健指導の状況

特定健康診査の受診率

令和2年度3年度とも新型コロナウイルス感染症の影響も受けて低下

令和4年度は全国・大阪府・本市も含め増加

保健指導終了率

平成30年度は大阪府より高く全国平均に近かった

新型コロナウイルス感染症の影響で低下し

令和4年度は大阪府の平均より低い状況

特定保健指導の保健指導レベル別の終了率

動機づけ支援も積極的支援も低下

⑥国保加入者特定健診・後期高齢者健診等保険者別受診状況

いろいろ健(検)診・・・健康保険加入の種別に関係なくがん検診とセットで受信

可能 集団健診 国保外2から3割年々増加

⑦乳幼児健康診査の受診率の推移

高い水準で推移

3歳6か月児健康診査時のう歯の保有率・・・全国・大阪府と比較すると高い

本市の経年推移大きく減少

(6)健康マイレージ事業の参加者数

事業開始当初・・・100人～徐々に増加

令和4年度・・・597人まで推移

令和5年度・・・3000人(令和6年1月に電子アプリ化)

歩くや健診を受診という健康づくり行動のポイントをアプリ内でためてそのポイントを地域通貨さのぼに交換

40歳未満、40歳代、50歳代など働く世代の参加者が増え、割合も半数以上

健康フェスタの参加者延べ人数

令和3年度・・・新型コロナウイルス感染症のためやむなく中止

令和5年度・・・大型商業施設「いこらもーる」で実施

今年度・・・りんくう総合医療センターの第8回世界糖尿病デーりんくうフェスタと同時開催

11/16午前中実施予定

(2)資料2 泉佐野市のがん検診受診率の状況と取組みについて

令和3年度の大阪府内におけるがん検診の受診率の各市町の状況

43市町村の中で、胃がん検診は受診率4.2で27位、

大腸がん検診は4.6で36位

肺がん検診は3.0で37位

乳がん検診は 12.4 で 35 位

子宮がん検診は 18.2 で 19 位

受診率の低さが課題

資料 3 受診率の高い市町村のうち、人口規模が泉佐野市と近い 3 市に聞き取り実施
(河内長野市、藤井寺市、松原市)

・「情報提供」・・・パンフレット、ホームページ、市報、受診勧奨等について
(3 市)

広報・ホームページ・パンフでの情報提供

松原市の取り組みとして、勧奨ハガキの対象者を毎年検討

受診勧奨を一定年齢ではなく、前年度の受診年齢や男女比を参考に、見直し

(泉佐野市)

町会を通してのチラシの回覧

20 歳から 65 歳（5 歳きざみの年齢）へ圧着ハガキによる勧奨、再勧奨

乳幼児健診の保護者の方への案内通知に、がん検診の勧奨チラシを同封

2 回（9 月と 11 月）・年 3 歳半健診の日、保育併設の婦人科検診を実施

前年度・・・婦人科検診がある 3 歳半健診の対象者に案内通知、一時保育 1 人

今年度・・・7 月～9 月の乳幼児健診全ての保護者に案内通知、一時保育 8 人

10 月泉佐野市電子母子手帳サービス「さのっ子ナビ」に掲載（がん検診受診率向上キャンペーン）

前年度の受診者の構成を分析→受診勧奨対象者を検討

・「受診の利便性」・・・予約方法、場所、時間枠について

(3 市)

河内長野市や松原市の取り組みとして、1 年分の予約が取れるシステム

(泉佐野市)

インターネットやコールセンターでの受付や委託業者を同一にし、1 日あたりの
予約枠数を増やし空きの予約枠を効率的に活用

「先々行予約」婦人会や町会に取りまとめを依頼、

「先行予約」5 人集まれば一般予約より先行予約可能

インターネット予約定着

土日の検診・夜間の検診・特定健診とがん検診のセット検診実施。

地域施設で出張検診実施

5 つのクールごとの予約→インターネットに限定して 1 年分の予約へ検討

・「資源」・・・インセンティブ・無料クーポンのポイント付与について

(3 市)

20 歳の子宮がん検診の無料クーポン

40 歳の乳がん検診の無料クーポン

松原市では、アスマイルの活用

藤井寺市ではポイントがたまれば抽選で景品

(泉佐野市)

令和6年1月から健康マイレージ事業のデジタル化を推進
がん検診を1つ・・さの健康ポイント500ポイントが付与
ポイントはさのぽに変換可能

次年度・・無料クーポンや受診勧奨はがき・特定健診やがん検診の案内等に、ポイント付与をPR

がん検診を受けるとポイント付与がある旨のポスターを作成

医療機関にも掲示、医師会に協力を依頼を検討

(3) 資料6 糖尿病予防対策、特定健診受診率・特定保健指導実施率向上など各取り組みについて
泉佐野市の国保医療費の状況

入院+外来・・・1位慢性腎臓病(透析あり)、2位糖尿病
3年連続で糖尿病と慢性腎臓病が高い

今年度の取り組み

リブレを使った取り組み

24時間血糖を測定する機器

大阪大学とは共同実施・・特定健診結果のHbA1cがやや高め未治療者 12名

日本生命に委託実施・・20名の参加 3か月の保健指導プログラム

不整脈 心疾患の取り組み

特定健診で心電図が必須項目に

心房細動があれば、りんくう総合医療センターの紹介

未受診者には受診勧奨の電話

健診受診者より健診未受診者の方が医療費が高い状況

健診受診が医療費にも関係

資料7 医療機関を受診の有無と健診受診の有無の関係

医療機関を受診→健診受診 31.6%、健診未受診 52.6%

かかりつけの先生の協力が大事

個別健診が71.8%、集団健診が28.2%

かかりつけ医から特定健診受診勧奨の依頼

特定健診の受診勧奨のためナッジ理論を利用したはがきによる勧奨

ショートメールを活用し受診勧奨実施

保健指導の受診率向上

保健指導対象者リストを作りそれを医療機関と共有、医療機関から市の保健指導勧奨依頼

集団健診で受けた方に全員を対象に保健指導ブースに案内・・早期介入も含め可能な範囲での結果の説明を行い、生活習慣を確認

(質疑応答)

委員) 特定健診の集団健診受診者ががん検診と一緒にされているのか

個別の医療機関での健診受診が、がん検診につながっていくのか

事務局) 集団健診で6~7割の方はがん検診と同時受診している。

電話では一緒に受けられるメリットがあるのなら集団健診受診という方が多い。

委員) 医療機関に行っただん検診につながっているのか。

女性の子宮がんにつなげていくような取り組みが必要ではないか。

事務局) 胃がん検診・大腸がん検診・子宮がん検診・乳がん検診は個別医療機関で受診可能。

特定健診と個別の乳がん・子宮がん検診同時実施の方も多い。

医療機関よっては、別日設定となる。

事務局) 受診率の高い他市

特定健診だけでなく他のがん検診のPRポスターも医療機関掲示

泉佐野泉南医師会の先生方と協力して、PR実施予定

委員) 資料1の8ページの国保医療費の入院

令和5年度は他の年に比べて大動脈瘤が8位多い理由

肺がんがベスト10に入っていない理由

がん検診受診率が高い市町村箕面とか高槻なども高い。

こどもから教育で学校の教育で、健診の重要性検診の内容・方法の教育を

こどものころから知る機会を作してほしい。

事務局) 大動脈瘤はりんくう総合医療センターが大動脈瘤の入院や手術などのほとんどを実施

肺がんが10位以内から落ちたことは、未分析

肺がん検診は泉佐野市泉州地域では受診率が低い原因は集団健診のみ

個別健診をするには二重読影という課題あり

子どもの頃から病気のことやがん検診について重要性の教育について

中学校では3年間で48時間の保健体育の時間

使い方は学校によってまちまちであり

お酒や薬物は必ず各学年は1時間必須

学校教育と連携をとり介入したいが、学校現場は多忙で難しい現状あり

委員) アスマイルでは検診受診率の高いところが、非常にアスマイルの加入が高いところではないか

泉佐野はさのぼっ歩で上がる可能性がある。

アスマイルと一緒にやられているのではないか。

事務局) 現在人口規模が近い、河内長野、松原、藤井寺の3市の聞き取り調査

河内長野市はアスマイルで健診受診された方にはポイント付与

泉佐野市では今年度4月からがん検診や健康診断を受けるごとに500p付与開始

次年度 ちらし・クーポンにPR実施予定

会長) インセンティブは大切 ぜひPRを

大動脈瘤の手術は、ほぼりんくう総合医療センター

昔は人工血管で置換する手術から最近はステント手術

ステント手術はリスク少なく高齢者も可能・医療費のアップにつながっている可能性あり

委員) 肺がんに関して医師会の最近の話題や流れ

りんくう総合医療センター主体の勉強会での指摘

肺がんについて りんくうの専門医師が在籍、手術件数も徐々増加

早期で見つかるケースが少ないとの指摘あり

地域で肺がん検診の事業を実施希望

医師会との協力の下で実施

二次読影の準備も必要

資料2で三市三町の中では田尻町が高い、阪南市・泉佐野市・岬町いずれも低い

三市三町で足並みをそろわれない場合には、泉佐野市先行で実施希望

会長) 昔は喫煙と関係した肺がんが多かった

最近は腺がんという喫煙とあまり関係のないもので、重症で見つかる肺がん増加

委員) 最近喫煙率が低下

受動喫煙に対して厳しくなっている

扁平上皮癌という喫煙と関係がある方が目立たなくあり、腺がんが目立つ。

特に肺がん検診でレントゲンを嫌がる人が結構いる。

啓発が今後大事

会長) 田尻の計画の委員で、田尻の状況を知っている

田尻では、健診というと周りの人に声をかけていきやすい環境がある

田尻町は規模も少なく 声掛けしやすい可能性あり。

委員) 声掛けは大切。ビラ一枚より一人の声掛け

委員) 特定健診受診率、健康診断を誕生日近辺で実施促すと受診者増加

3月2月と駆け込みが多いので、誕生日月で案内実施

誕生日月で意識上がった

会長) りんくう総合医療センターで糖尿病代謝内科の先生で誕生日月の検査実施

年1回誕生日の月に合併症のチェック実施

決まった時期に全身チェックの癖

誕生日を利用するよい

委員) 企業で誕生日月に人間ドックを受診あり

委員) 誕生日健診は吹田市が確か採用

それで比較的受診率が高い

難点があるのは3月生まれが問題

委員) 3月生まれは10月に

委員) 半年で実施すればよい

委員) 資料6 医科入院は がんや呼吸器疾患 COPD とか慢性呼吸器系の疾患はふくまれていないのか

事務局) 資料6は含まれている。

資料7の方はがん・精神・筋骨系の疾患を除く形

委員) 資料6、7で健診の分別と言ってしまうと語弊あり

他の疾患が含まれているので、循環器系の疾患に特化しないと誤りがでてくる

健診受診者 40~74歳の男性については、地区(泉佐野市)の方がよくない。ただ1件当たりの点数ですから、ものすごく大きい点数が入っている可能性あり。

入院も1位から20～30位くらいのレセプトを見るとより正確なことがわかる
資料1の7ページ医療費の状況のところ慢性腎臓病 糖尿病という風に分けているが、糖尿病に関連する再掲でよいので、慢性腎臓病 糖尿病 慢性腎臓病（透析有）【糖尿病】
2位の糖尿病と合わせるとよくわかりアピールしやすい。見せ方の工夫を

会長) 透析患者9割以上が糖尿病性の腎臓病

資料1の5ページのところ急性心筋梗塞は大阪府に比べると死亡率はかなり低い
心不全については、女性は少し高いですが、大阪府に比べてもそう悪くはない
心疾患全体では、大阪府より泉佐野市がどちらも高い、
これはなぜか

事務局) その他の心疾患かどうかについては 分析もできていない。

会長) りんくうに搬送で心筋梗塞はすぐに救命できている

海外と比べても救命率は高く、死亡率は低い。

SMRに反映している可能性あり

委員) 7ページの国保医療費の状況

5位 6位に 高血圧症 同様に不整脈が入っている

心房細動が非常に多くて健診に心電図の取入れていただいた経緯あり。

高齢者の方でも心房細動、高血圧からくる心房細動が影響している可能性あり

会長) りんくう総合医療センターで心房細動の治療数多い、

アブレーション、数年前から阪大から専門家が来て実施、数増加。

心房細動の数増加の可能性もあり

心房細動のままでは脳梗塞になり脳塞栓・梗塞をたどり寝たきりになる場合も多い

心房細動の段階で即治療が一般に

心房細動からの梗塞等は今後減少する可能性あり

高齢者の増加で、心不全が増加、心不全に伴って心房細動も増加。心房細動で心不全になる場合もある。

不整脈は5位からも上がって増加する可能性あり

統合失調症は入院が高額な医療

高い薬をたくさん使用しているのか

事務局) 泉州地域は、精神病院が府下のほかの地域に比べると病院数と病床数が多い

どのような薬を使用されているかまでは把握していない。

会長) 医療費を減少のためには、薬使い過ぎの可能性。

委員) 貝塚市では長期入院の方は貝塚市に住所変更する。

泉佐野市は住所変更せずにそのまま入院の可能性あり

委員) 資料1の6ページで死亡比の泉佐野市女性の腎不全の数が多い

腎不全で死亡の人は糖尿病の透析からの腎症か。

事務局) 分析の方はできていない。

(4) 第2次健康増進計画・食育推進計画の進捗状況について

事務局) 資料8

第2次健康増進計画・食育推進計画の概要版

令和2年度から令和7年度までの6か年を計画期間

健康づくりと食育を一体的に推進するために

令和2年3月に策定

基本理念：健康なまち いずみさの ～みんなでつなぐ健康づくりと食育の環～

目標：健康寿命の延伸

進捗管理：毎年、庁内推進会議を開催

資料9

第2次健康増進計画・食育推進計画の目標値等一覧

評価指標の各項目の令和2年度時点での実績値と目標値を記載

令和3・4・5年度の実績値あるものは記載

次回令和7年度の計画策定時にアンケート調査を行う予定のもの次回と記載

表の7行目の体育館と健康増進センターの利用者数

コロナ禍のためスポーツする人数が減少していたが、令和4年5年度は回復傾向ではあるが戻らず。

元気塾やロコゼロ教室

元気塾（カラオケ機器を利用した介護予防教室）

ロコゼロ教室（フレイル予防のための教室）

両方とも参加者が激減したが再開5年度に参加者へ「さのぼ」の付与を増額でコロナ禍以前より参加者が増加。

国民健康保険関連において、ハイリスクに至らない取組を実施

ハイキングやウォーキングイベントをはじめ各種の保健事業を実施することで。

中段の「フレイルについて知っている人の割合」

令和5年度から75歳以上の高齢者の方を対象とした「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」を開始。

通いの場において管理栄養士・歯科衛生士から講話や実技。

口腔機能や栄養機能の維持向上などフレイル予防の推進。

活動場所は毎年変更、令和5年度は7か所、6年度は10か所、7年度は12か所56か所を数年かけて全箇所実施予定。

学校教育関連

心の健康を支える支援として不登校の子どもが全国的に増加状況で、スクールカウンセラーが令和5年度までは5名のところが6年度からは9名に拡大

下から8段目の喫煙率

禁煙教育を学校教育課に確認、保健体育の授業で小学6年と中学2年時に教科書を使って、肺の写真などリスクを説明する1時間の授業

小・中学生対象に少年サポートセンター（警察OBによる）大麻の入りはタバコからと薬物乱用防止教室実施。

食育に関して

市内4名の栄養教諭を中心に、年3回、各小中学校で学校内外の取組を協議、SDGSの取組は4年間継続

来年度は健康増進計画・食育推進計画策定の年であり、教育関係の方たちや各課・各事業者・地域団体と連携をとりながら、健康増進事業を進める

資料10

食育の取組：令和6年6月、大阪南港ATCホールでワクワク EXPO ウイズ第19回食育推進全国大会

健康推進課と食生活改善推進協議会と2日間参加

泉佐野市の出展ブース「楽しく学べるフェルト野菜のお弁当箱つめ体験」と、「泉佐野産野菜を知る記念撮影コーナー」

6/1の参加者総数は320人6/2も311人

泉佐野産のキャベツ・水ナス・玉ねぎのフェルトやサテンのぬいぐるみとマント・帽子を着て記念写真

お土産：万博タオル・玉ねぎ・泉佐野カレー・イヌナキンバック

今年度の健康フェスタ開催時やいろいろな活動場所で食生活改善推進協議会やいずみさのみんなの健康づくり応援団の協力のもと全世代に向けて食育活動を実施実施予定

(質疑応答)

会長) 喫煙率、男性で21.9 女性9.0 これは、大阪府や全国の平均に比べて、どういうくらいの位置か。戦略は

事務局) 第4次健康増進計画の大阪府の市町村のグラフにおいて

大阪府平均男性33.2% 泉佐野市は平均より上。

女性の方も大阪府10.7% 泉佐野市は少し上。

喫煙の率は全国平均男性は25.4% 大阪府男性は24.3%と少し低い

女性は、大阪府8.6% 全国は7.7%

禁煙のポピュレーションアプローチ

世界禁煙デーの時には泉佐野市役所のロビーの方で啓発

健康フェスタでも啓発

委員) 資料9

地域のつながりの度合いとかグループに参加する度合いとかを指標にあげている狙いは

事務局) 地域のつながりについては、すべての福祉的な計画に入っている

健康マイレージアプリに関しても、今は個人の形で実施

地域福祉の計画では町会対抗などの形で、地域のつながりをもって健康にという形で進めている。

全体的には地域のつながりは孤独もなくすので進めている。

委員) 大阪大学での研究

地域でのつながりとは

社会生活をきちんと行えるかどうかということ

健診の受診行動なども関連

自治体活動が活発化し地域のコミュニティー力が上がると集団健診受診率の向上

福祉的な話「最近あの人見かけへんなあ」を含めて見守り可能

地域のつながりがあると声掛けもしやすい

見守りがやりやすい

委員) 地域にリーダー的な人をよりたくさん持つことは非常に良いこと

そういう福祉を含めて考えておられるのか

事務局) 現状は、がん検診の先行予約：家族や地域の方に声をかけて住民をまとめて

先々行予約：婦人会が地域の方の電話、10人20人単位で予約

広められるようにしていきたい

会長) 地域にある程度何人か地域ごとの責任者。ボランティア的な方を作って

地域同士のコンペティション

例えば受診率 例えば1位 2位 3位に褒美を与えるや表彰を

対抗意識でアクティブに

委員) 物事を継続していくポイントは競争

競争で可視化すると継続できるきっかけに

会長) 何年か実施しその地域の受診率が上昇すれば、その地域の病気の統計を

データ分析で目標も決まり結果も伴うのではないか。

委員) 担当課が違うが、喫煙率に関して

学校薬剤師で小学生にアプローチするということを考えていただきたい

年齢を上がっている人は病気やCOPDとかで辞めざるを得ないきっかけがないとやめない

子どもの入り口を止める

熊取町は全町のところで薬物乱用教室を今年度実施

健康フェスタ、できたら昼からか日曜日に実施できないか

薬剤師会でも協力させていただく

今年度はフレイルに関しての啓発、握力測定・体がどれだけ曲がるかと

事務局) 今年度はりんくう総合医療センターと合同で実施、

例年は1日午前からお昼3時ごろまで一日実施

今までの1日実施では昼から来客が少ない現状あり

今回はりんくうの計画が午前中に合わせた形となる

委員) 喫煙率だが国も府も同じ指標で出しているので使わざるを得ない

例えば20代に限った喫煙率が泉佐野市さんの施策をより鋭敏に反映する資料となる
朝食の欠食率20~30代が一番最初にでてくる

朝食というのは独身か結婚しているのかが影響を受ける因子

この年代の晩婚化とか未婚が増る可能性

目標値を低く設定するのはよいが、結構ハードル高くなる。

悩みやストレスのある人の割合というのは、施策的目的があるかと思うが

悩みとかストレスがない世界という、目標を達成するのはなかなか難しい

委員) 福祉協議会はいろいろ各地域でサロン実施

高齢者が集まる場、子育てサロンでは母やサポートの人が集まる。

健診の PR をしていただける機会はある。

泉佐野は全地区に子育てサロンとか年寄りのサロンとか独居老人のサロンあり。

月に何回も実施、そういう機会に啓発できる。

長滝では一回で高齢者は 70 人近く、子育てサロンでは 20~30 人近く

町会加盟率 泉佐野は低い

町会員を増やす工夫を市はしているがなかなか増えない

町会に入っていない人が多いので町会を使ってアピールというのは浸透がむづかしい

町会から市報を配布しているが、未加入の方には配布せず、個人が広報紙を取りに来るシステム

未加入の方へのアピール方法がある。

福祉は町会加入とは関係ないので、町会外の人でも可能

情報伝達に各団体を使ってほしい。

民生のふれあい交流会は 1 地区だけでも 100 人以上集まる町会未加入の方も来る。

福祉協議会としても協力惜しまなくやり広報活動が効率よくできるか

委員) 女性の腎不全の SMR

SMR は年齢性別の仕様ですので地域間の比較可能

欠点は対象人数の少ない疾患は母数が少ないとぶれが大きい

悪化の原因かもしれない。

実数を見るとよい

(5) その他

事務局) 資料 11

健康マイレージ事業デジタル化さのぼっぽと新型コロナワクチン定期接種について

平成 24 年度から健康マイレージ事業を実施

2024 年 1 月よりスマートフォンアプリ「スポーツタウン WALKER」を活用した事業「愛称：さのぼっ歩」として再スタート

「身近な場所で」「手軽に」「楽しく」健康づくりを続けられることを目指す。

アプリでは毎日の歩数や距離が自動的計測

体重を入力することで BMI 管理

毎日の健康づくり活動が数値として見える化

- ① 歩く、②健(検)診を受診する、③健康イベントに参加する、健康づくり活動で「さの健康ポイント」がたまり、それを地域ポイント「さのぼ」にアプリ内で交換
利便性が大きく向上、利用者数は急増

4 月中旬、2,400 人登録 (利用開始からわずか 3 か月当初の目標達成)

スタートから半年で市民の 3%が登録

8 月 7 日時点、3,588 人登録 全国 3 位

現時点 10 月末、4800 人以上登録、全国 2 位

利用者の内訳 性別では男女比が約4対6
年代別内訳では、50歳代が22%、60歳代以上が44%
一般的にはスマートフォンに不慣れな60代以上が高い利用率を占める
市民説明会をこまめに開催し、市職員がアプリ導入を手厚くサポートした結果
Web上でアンケートフォームにより調査（5月に利用者の方）・・・412人の方より回答
「さのぼっ歩」を何で知ったかの項目

「広報誌を見た」、「友人等に勧められた」の地域の絆が強い本市の特徴

市長のSNS・お店のお客様が教えてくれた・市の職員の勧めなどの回答もあり

「さのぼっ歩」に参加して自身に変化したことの項目

「いつもより多く歩くようになった」「健康づくりを意識するようになった」が多く
さのぼっ歩への参加が健康面でも効果が出ている。

「数値に現われたり、記録が残るので、自然にやりがいを感じるようになった」「血圧、
体重を毎日測るようになった」という意見もあり。

今後、利用者数増加めざし、健康的な生活習慣の定着、コロナ禍で落ち込んだ特定健診やがん検診の受診率の向上を重点課題。

8月から、泉佐野市以外の医療機関で健(検)診を受診した場合も、ポイント付与申請可能(会社勤めの方など)

働き盛りの若い世代や健康無関心層に対しても生活習慣病の予防と、早期発見・重症化予防の取組を行い、市民全体の健康増進、健康寿命延伸を進める

資料12

新型コロナワクチン定期予防接種について

今年度から新型コロナワクチンは、定期予防接種として位置づけ

定期予防接種の対象者・・・接種当日65歳以上の方と、接種日当日60～65歳未満の方

(心臓・腎臓・呼吸器・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能で自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度以上の障害を有する人)

10月15日から令和7年1月31日までに1回の接種を予定

自己負担金は3,000円

市民税非課税世帯もしくは生活保護受給者の方は申請手続きで自己負担金は徴収しない

自らの意思と責任で指定医療機関にて申し込み。

熊取町・田尻町・泉南市・阪南市・岬町でも接種できる医療機関があり、希望する場合は健康推進課へ問い合わせ

(質疑応答)

委員) さのぼっ歩の質問

WEBでアンケート回答ですが、WEB回答率の年齢構成を知りたい

あとは8月から市の健診以外でも会社の健診でもポイントの付与開始で、これは受診率に会社の健診を反映できないか

事務局) がん検診の全国的での統一した受診率で国と泉佐野市を比較

がん検診の受診率のルールのあるところに数を足すことができない

社会保険の方が受診したものを足すのは難しい。

市民がどれくらいの件数受けてくださっているかは見ることは可能

事務局) アンケートの 412 人の年齢構成、手元に資料がない。

年齢構成は出ている。

表に示した年齢構成より Web でのアンケートは若干若い方の回答数が多かった
大きな差はない

委員) 自治会の活動の柱に「健康元気」を入れている

興味を聞くと健康は非常に高い、「健康」が一番皆さん興味がある
掘り起こしが課題

「健康」は皆を引き付けている

事務局) 次回、来年度の開催につきましては、改めてご案内

本日の議事録につきましては、後日送付、確認を